様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６６５
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ２１９６７

研究課題名（和文）19世紀米国女性作家の東洋思想への接近とその影響

研究課題名（英文）Exploring Eastern Philosophies: 19th Century American Women Writers' Engagement

研究代表者
内堀　奈保子（UCHIBORI, Naoko）

日本大学・危機管理学部・准教授

研究者番号：３０６３２２９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、米国で初めて仏教の翻訳をし、東洋思想に深い関心を寄せた19世紀米国の作家、エリザベス・パルマー・ピーボディ(1804-1894)の著述を分析することにより、米国における東洋思想の受容と当時のジェンダー状況との関連を考察した。その結果、ピーボディのトランスナショナルな思想と多元主義的な思想の背景には、社会的な自己実現が非常に制限されていた19世紀米国女性を取り巻くジェンダー状況の影響が色濃く反映されていることが浮き彫りになった。考察の結果は、国内学会や地域への公開講座で研究発表を行い成果とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
米国作家における東洋思想の受容を、これまでほとんど研究されてこなかった女性の思想家を通して辿りなおす本研究は、アメリカ文学史・思想史の偏向を補填し、深化させ得る、学術的に意義のあるものと考えられる。さらに、ピーボディのトランスナショナルな思想と多元主義的な思想を明らかにすることで、現代の世界秩序と人間の生のありようを考える今日的な視座が提示されており、社会的にも本研究は重要な意義を持っていると考える。

研究成果の概要（英文）：This study examines the relationship between the acceptance of Eastern thought in the United States and the gender problems by analyzing the writings of Elizabeth Palmer Peabody (1804-1894), the first 19th century American writer to translate Buddhism in the United States. The examinations revealed that Peabody's transnational and pluralistic thought was strongly influenced by the gender situation surrounding 19th century American women, whose social self-realization was highly restricted. Research results were presented at national academic conferences and public lectures to the community.

研究分野：米文学

キーワード：Elizabeth Palmer Peabody　米文学　東洋思想　超絶主義　トランスナショナル　19世紀米国女性　Unitarian Universalist

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

従来、米国作家の東洋思想の影響を論じた研究は、ラルフ・ウォルド・エマソンやヘンリー・デイヴィッド・ソローといった高等教育を受けた男性作家の作品の分析を通して行われてきた。しかし、1844年に米国で『法華経』の初めての英訳を出版したエリザベス・パルマー・ピーボディのように、19世紀米国における東洋思想の流通と受容には、米国女性の牽引があったことについてはほとんど注目されてこなかった。

申請者は、東洋思想に関心を寄せた米国女性作家の系譜を辿るというテーマで、リディア・マライア・チャイルドやメアリー・ムーディ・エマソンの作品における仏教の影響を論じてきた。今回の研究対象であるピーボディは、米国で初めて仏教の経典を英訳して出版した人物として注目するようになった。その研究書を読む中で、東洋に早くから関心を示すとともに、米国における思想変革の重要な潮目となった超絶主義の形成と伝播に多大な貢献をしているにも関わらず、日本ではフレーベルの幼児教育を推進した人物として幼児教育の分野で論文がある程度で、米国においてもその著述が東洋思想の影響を受けているとは十分論じられていないことに疑問を抱いた。彼女の東洋思想への傾倒と超絶主義形成への影響を探ることで、米文学史の偏向を修正し、さらには、米国のリベラリズムの形成におけるトランスナショナルで多元主義的な思想と持つ女性の貢献を明らかにしたいと考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、ピーボディの小説、歴史書、言語論に表象される先駆的な東洋の理解と受容を明らかにし、19世紀の米国における東洋思想の受容を米国女性の置かれていたジェンダーの視点から考察することである。当時はまだ異端として憚られていた東洋思想に関心を持ち、米国で初めて仏教の翻訳をしたピーボディの作品における東洋の表象のされ方とその意義に注目し、彼女がなぜ東洋思想に接近し、どのように受容しているのかを明らかにするとともに、現代の米国まで通底するリベラリズムの形成を牽引した一人であったことを明らかにする。

３．研究の方法

（1）研究の目的で挙げた 3 つのアプローチを土台にして、関連するピーボディの著述を細かく分析、考察する。

（2）出版されている著述が極めて少ないため、オンライン等を活用してできるだけ多くの資料にアクセスする。

（3）現存する図書や手紙のうち、日本では入手困難な資料を含めて考察するため、現地にて資料収集・調査を行う。

４．研究成果

本研究の主な成果を以下の通りテーマごとに挙げる。それぞれ新型コロナウイルス感染防止のため海外での文献調査ができず延長した3年目にして実行した影響で、成果刊行が予定よりも遅れているが、助成期間以降においても論文のかたちで成果刊行する予定である。

（1）小説「ヴィジョン」に表象される東洋と超絶主義思想
一人称の語り手が「新しい生の信仰」を見出していく過程を、東洋の描写に着目して分析する。過去と現在、虚構と真実、西洋と東洋が同時に現れた混沌とした世界を幻視する描写は、西洋のロゴスだけでは説明困難であり、その「ヴィジョン」が制度や物質が転生する中で可変的に再創造され、超越主義的な新しい信仰の在り方が描かれていると読む。報告として、「Elizabeth Peabodyの超絶主義と東洋思想 “A Vision”（1843)を中心に」(2018)の発表を修正の上、論文として刊行準備を進めている。

（2）歴史書『歴史を解く鍵』及び『普遍史』における東洋史観の変容
26年の年月を隔てて刊行された二冊の歴史書を当時の東洋史観を押さえながら、その独創性を論じるとともに、両著書の東洋史観の変容を考察することで、ピーボディの思想の変化を辿る。また、入門書も含め生涯で7冊もの歴史の著作を出版していることに注目し、彼女が置かれた文化的、社会的な状況と、その意図していた効果について考察する。2022年にConcord Public LibraryおよびHarvard Houghton Libraryにおける文献調査で入手した閉架図書資料の分析を進めているが、手書きの手紙も含まれており、解読するのに時間がかかっている。学会発表や論文刊行のかたちで成果を発表する予定である。研究テーマを広く公開するため、「私の研究生活――９年振りのボストン滞在を振り返って」(2022)を記した。

（3）『言語論』で提示した独自の言語観とその生成過程
19世紀中葉、先鋭的な超絶主義思想に傾倒する一方で、ピーボディが強い関心を持っていた東洋の言語についての著述を中心に考察する。サンスクリット語を含む多言語の修得に加えて言語理論も独学したピーボディは、世界の言語に普遍的な共通点があるという言語論を持つに至る。ピーボディのこの言語観が、世界の宗教は対立するものではなく、本来は多重層的な関係にあるとする多元的な宗教観へと繋がっていることを分析する。報告として、「Elizabeth Palmer Peabody の東洋思想の受容と言語観」(2022)を発表した。

（4）ピーボディの東洋思想への接近や超絶主義の形成への貢献を考察する中で、彼女が同時代のエマソンやチャニングなどの男性知識人の影で長らく脚光を浴びてこなかった理由として、19世紀米国キリスト教徒の女性を取り巻くジェンダー観と「ケア」労働があることに思い至った。ピーボディの研究を通して新たな研究テーマの着想を得たことで、共同研究者として別の新たな研究助成を採択される契機となった。（課題番号：2H00649）萌芽となる研究報告として、「ケアの視点から読む『緋文字』」(2021)を発表した。2023年度以降は、共同研究のグループにおいて研究を進めていく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 内堀　奈保子
２．発表標題 「Elizabeth Palmer Peabodyの東洋思想の受容と言語観」
３．学会等名 日本大学英文学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 内堀　奈保子
２．発表標題 「ケアの視点から読む『緋文字』」
３．学会等名 日本ナサニエル・ホーソーン協会
４．発表年 2021年

１．発表者名 加納（内堀）　奈保子
２．発表標題 「私の研究生活――９年振りのボストン滞在を振り返って」
３．学会等名 日本大学英文学会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関